

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第11週 (3/14-3/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		11週	10週	9週	8週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	27	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	3/14-3/20	3/7-3/13	2/29-3/6	2/22-2/28	3/7-3/13
			11週	10週	9週	8週	10週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	1	7
			0.00	0.00	0.00	0.06	0.05
	咽頭結膜熱		3	1	2	2	18
			0.17	0.06	0.12	0.11	0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		53	48	56	59	480
			2.94	2.67	3.29	3.28	3.56
	感染性胃腸炎		102	85	95	101	661
			5.67	4.72	5.59	5.61	4.90
	水痘		7	7	3	16	56
			0.39	0.39	0.18	0.89	0.41
	手足口病		1	1	0	0	3
			0.06	0.06	0.00	0.00	0.02
小児科	伝染性紅斑		7	8	10	2	56
			0.39	0.44	0.59	0.11	0.41
	突発性発しん		7	4	7	8	44
			0.39	0.22	0.41	0.44	0.33
	百日咳		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
	流行性耳下腺炎	○	12	9	6	5	156
			0.67	0.50	0.35	0.28	1.16
	インフル	★★	578	762	897	962	5,917
	インフル	★★	21.41	27.21	33.22	34.36	27.78
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	0
			0.00	0.00	0.25	0.00	0.00
眼科	流行性角結膜炎	○	4	2	2	3	17
			0.80	0.40	0.50	0.60	0.52
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	3
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.33
	マイコプラズマ肺炎		1	1	0	0	6
基幹定点			1.00	1.00	0.00	0.00	0.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1	0	0	0	0
			1.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体の検出	後天性免疫不全症候群	男性	30歳代	血清抗体の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起病菌の判定	後天性免疫不全症候群	男性	50歳代	血清抗体の検出
				梅毒	女性	80歳代	血清抗体の検出

・第11週は、結核1件(42)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(2)、後天性免疫不全症候群2件(3)、梅毒1件(4)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第11週のコメント

＜インフルエンザ＞前週より減少し21.41となった。流行発生警報終息基準値は上回ったまま。過去10年の同時期と比べると多い。

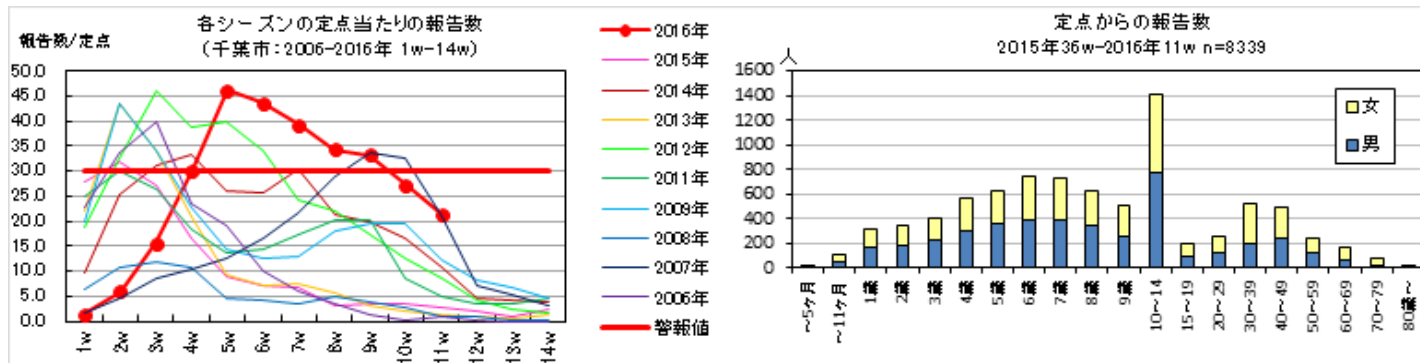
＜流行性耳下腺炎＞前週より増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜流行性角結膜炎＞前週より増加し0.80となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

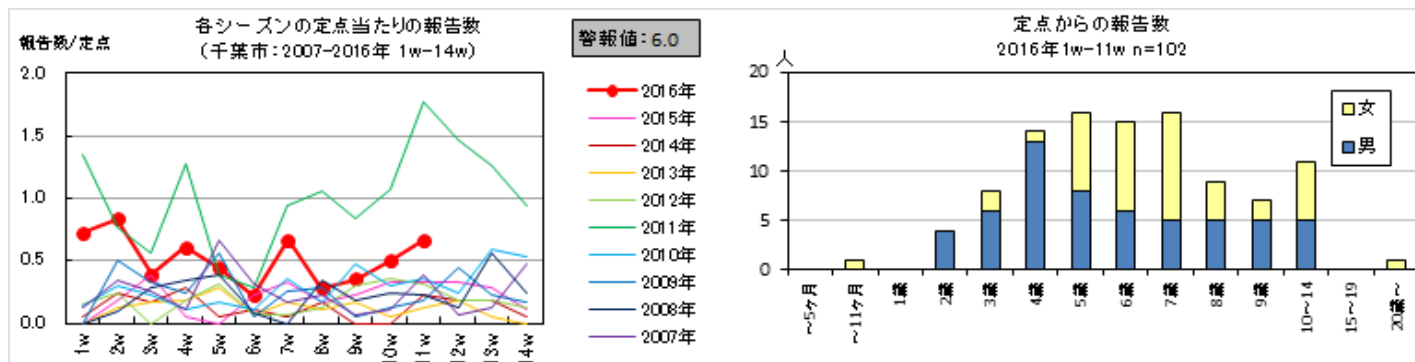
<インフルエンザ>

全国レベルの第10週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を下回りました。過去9年の同時期と比べると多くなっています。流行発生警報終息基準値(10.0/定点)は上回っています。都道府県別では、愛媛県、愛知県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の2016年第11週は前週より減少し21.41となりましたが、依然として流行発生警報終息基準値を上回っています。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(29.5/定点)で最多となっており、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第11週までの累積報告数(n=8339)によると、性別では男性が51.8%(4318名)、女性が48.2%(4021名)で、年齢階級別では6歳(8.97%:748名)、7歳(8.69%:725名)、5歳(7.60%:632名)の順に多くっており、20歳未満は全体の79.0、10歳未満は全体の59.7%となっています。また、型別迅速診断検査結果は、累積ではA型が47.4%、B型が41.9%となっていますが、第11週はA型が17.3%、B型が73.0%とB型が圧倒的に多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第10週現在、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、沖縄県、佐賀県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第11週は前週より増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(2.25/定点)で最多で、同区の5歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第11週までの累積報告数(n=102)によると、性別では男性が55.9%(57名)、女性が44.1%(45名)で、年齢階級別では5歳及び6歳(共に15.7%:16名)、6歳(14.7%:15名)の順に多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第10週現在、過去9年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、宮崎県、熊本県、愛媛県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の2016年第11週は前週より増加し0.80となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、若葉区(3.0/定点)で最多で、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2016年第1週から第11週までの累積報告数(n=36)によると、性別では男性が41.7%(15名)、女性が58.3%(21名)で、年齢階級別では30歳代(22.2%:8名)、50歳代及び60歳代(共に16.7%:6名)の順に多くなっています。

